

今月も  
つぶやき  
ます!

つぶやき  
がんちゃん

齋藤 廣勝

(さいとう ひろかつ)

株式会社トータルライフサポート  
代表取締役

- ・CFP®サーティファイドファイナンシャルプランナー
- ・1級ファイナンシャルプランニング技能士
- ・日本商工会議所 年金・退職金等認定講師
- ・住宅ローンアドバイザー
- ・金融広報アドバイザー

## リスク発生に備える

今月の  
テーマ

7月15日の秋田豪雨による被害は、その後調査が進むにつれ損害規模が拡大してきた。とりわけ、床上浸水の被害に遭われた方にとっては、物理的な被害のみならず、折からの猛暑も相まって、下水流入による悪臭や水が引いた後のカビに悩まされている。水災の場合、目の前のもの全てが目を覆うばかりに無残な状態となる。この先の生活復興を考えた時に、心が折れてしまいそうになるのも無理のない話だ。そんな中であって、せめてもの救いとなるのが保険という備えだが、補償が充分でなかったケースも少なくなかったようだ。それは何故起こってしまったのだろうか…。

この度の水災は、多くの方が想定外だったと思っているかもしれないが、本当に想定できなかったのではあるか?先月号でも書いたが、「ハザードマップ」や「秋田市内水浸水想定区域図」などを確認していれば、被害の想定はできたはずであるが、これらは意識して見に行かなければなかなか目に触れることはない。

災害というものは、平穏な普段の生活の中ではなかなか気づきにくいものではあるが、この度の大規模な水災を教訓として、今回被害に遭わなかった世帯にあっても「今回は」であって、明日は我が身かもしれない。決して対岸の火事では済まらず、改めて今後の備えについて考えてみてほしい。

「備え」という言葉を辞書で開いてみると、「ある事態が起こったときにうらたえないように…。」「これから先に起こる事態に対応できるように準備しておく、心構えをしておく。」とあった。ここで着目したいのは、「心構えをしておく」ということだ。「備え」というものは何も災害だけではなく、「病気やケガへの備え」「物品の値上げへの備え」「試験への備え」「教育費の備え」「断水への備え」などなど、多岐にわたる。要するに備えというものは、生活に関するあらゆる分野での起こり得る事態に対し、日頃から意識を持つことが重要なのである。

### それぞれの備え

備えるべきものが何かは、それぞれの生活環境や目標によって必然的に変わってくるし、あまりにも漠然としていて整理が付かない。起こり得るこの先の事態が想定できさえすれば、見えてくるはずなのだが…。明日の飲み会や資格試験に備えるのも大切なことだとは思いますが、そこは皆さん勝手にやっていたらいいので、ここでは、経済的な損失が発生するリスクを考えてみることにしよう。

### ■ 純粋リスクと投機的リスク

これら2つの違いは、純粋リスクは損失のみを発生させるリスク、投機的リスクは投資や金利変動などにより、損失と利益のどちらの可能性ももたらすリスクとされる。(表1)

純粋リスクとしては、近年の地球規模での気象の変動により、自然災害などのリスクが増大、投機的リスクとしては、長引く金利の低迷や急激な為替変動により、私たちの資産への影響が増大している。純粋リスクと違うのは、利益にもつながるし損失を招くことにもなるということだ。これらの不確実な事態に対しては、何らかの対策や備えを取らなければならぬが、リスクの大きさや頻度によってその手法は異なってくる。

(表1)

純粋リスク	投機的リスク
<ul style="list-style-type: none"> <li>・火災</li> <li>・水害</li> <li>・地震</li> <li>・自動車事故</li> <li>・盗難</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・為替変動</li> <li>・金利変動</li> <li>・株価変動</li> <li>・政治情勢</li> <li>・経済情勢</li> </ul>

## 保険と暮らしの相談センター

### “水災への備えは十分ですか?”

この度の豪雨災害により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。今回の水害によって、多くの方が建物や自動車に多大な損害を被りました。今後に備えるためにも、現在ご加入中の損害保険の補償内容チェック・見直しが大切です。弊社では、ご加入中の各種保険の無料診断を行っていますので、お気軽にご相談ください。

お気軽にご相談ください。

株式会社 トータルライフサポート

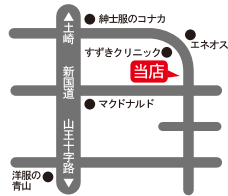
〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22  
● 営業時間 / 9:30~18:00 (土・日・祝日は9:30~17:00)  
● 定休日 / 水曜日

TEL 018-827-7611

FAX 018-827-7610

URL <http://tls-akita.co.jp>

詳細は  
ホームページでも  
ご覧いただけます。



## リスクの強度と頻度

対策や備えが必要となるのはリスクの強度(経済的影響の大きさ)と頻度(発生回数)によって異なり、相関関係マトリックスに表すと表2のようになる。数字が大きいほど、影響度は大きくなり、それぞれの経済状況により備えの考え方や方法も異なってくる。

(表2)

強度	3	6	9
2	2	4	6
1	1	2	3
	1	2	3
	9~超高リスク	6~高リスク	3~中リスク
	1	2	3

## 「マトリックスの見方」

- 低リスク：頻度も強度も低い
  - 中リスク：頻度・強度どちらも中程度、頻度は低い、強度は高い、強度は低い、頻度は高い
  - 高リスク：頻度は中程度だが強度は高い、強度は中程度だが頻度は高い
  - 超高リスク：頻度も強度も高程度の場合だが、現実的にはなかなか存在しないし、生活が成り立たない状態だ。
- では、この度の秋田豪雨に関してはどこに位置するのだろうか？多くの方が想定外だと思っているくらい、人生初めての出来事であれば頻度は低いのかも知れないが、床上浸水が1メートルを超える世帯にあっては、その復旧費用が1000万超となった住宅も少なくなく、そういう点では水害という災害の強度は高いと見るべきであろう。だとすれば、頻度こそ低いものの一旦発生した時の強度を考えれば、保険という備えは必須と考える必要がある。

あるだろう。辛くも床上浸水の被害で終わった住宅にあっては、今後の気候変動を意識すれば、床上浸水を想定した備えが必要といえる。

## リスクの洗い出しと強度・頻度の判定

今月は、やたらと難しい講釈を垂れていると思われているかもしれないが、私の立場からして、「相談者のリスクの洗い出し」と、「備えを必要とするかどうかを考える上での強度や頻度の判定」なくして、対策のアドバイスはあり得ないことなのである。皆さんがそれぞれに情報収集を行い、リスクの判定と対策を取れることによつては専門的な知識なども必要になってくる。起こつてしまつてからでは遅い。この言うまでもないし、安全と安心を確立するためにも手を抜くことは許されない。

## リスクを分類すると見えてくる

リスク・リスクと何回叫んでも、その存在は漠然とした域を出ない。そこで、潜在するリスクを種類ごとに分類することで、「漠然としたもの」を「見える化」することが出来る。見えてしまえば、それぞれのリスクに対してどんな対策、備えが有効なのかも見えてくる。ここまでくれば、もうこつちのものだ。人間の体に例えれば、発熱の原因が診察や検査によつて、風邪なのかコロナなのか、はたまた熱中症なのかが分かつてしまえば、どういふ治療が有効なのか、どういふ薬を飲めば良いのかが見えてくると一緒かもしれない。また、リスクのチェック

クをすることは、人間ドックを受け、体全体の健康状態を確認することと似ているような気もする。この度の大災害がせめてもの教訓となり、これを機に改めて行動を起こすきっかけにしたいものだ。

## リスクコントロールする

そんな大それたことが出来るのかとお思いかもしれないが、先ず考えねばならないのは、ここからなのである。理想的な対策は、事故そのものを回避することが一番なのは言うまでもない。極論を言えば、アルコール中毒にならないためには酒を断つてばいいだけの話だし、自動車事故を起こさないようにするには車に乗らなければ良い。そんな、「ムクチャクチャなこと」出来るか、ということになるので、次に考えるのは、「いかに軽減するか」ということになる。できるだけアル中にならないようにするには、休肝日を設けるとか、ノンアルコールに切り替えるなどの対策が考えられる。また、自動車にも乗らないわけにはいかない。衝突被害軽減ブレーキなどの安全装置が充実した車に乗換えるなどの対策が考えられるが、それでも、リスクをゼロにはできない。もし、リスクの発生が回避出来ず、また軽減策をとつても経済的な損失の影響が大きく、保有する資産をもつても許容できない場合に登場するのが、「最終手段」保険加入により経済的な損失を「移転」するという備えなのである。

## 「リスクコントロールの手法」

リスクによつて発生し得る損失の頻度と大きさをコントロール

する対応方法で、回避・損失防止・損失削減・分離/分散など

## 「リスクファイナンスの手法」

リスクによつて発生した損失を、金銭で補填する対応方法で、保険などによる「移転」、資産を当てて自己負担するなどの「保有」がある。※リスクを保有するとは、リスクを認識しながらも発生時の頻度や損失額の程度が低い場合などでは、「回避・低減・移転」といった対策を取らず、自己の保有する資産で損失を受け入れる(許容)ことをいいます。

## では、どうすればいいの…

ここまで、やたらと難しそうなが、端的に言えば、災害などのリスクを見える化し、想定される損失に対して、回避や防止ができるものであれば、それに越したことはないということだ。しかし、軽減策などのあらゆる手立てを講じたとしても経済的損失を免れない問題に関して、保有資産をもつてして手当するしかない。そんな余裕は大きく、想定される損害額が大きいと対応しきれないというのであれば、経済的損失を保険に移転させるしかないのである。この度の水害も、保険がどれほど大きな効果を発揮したかは、多くの方が実感することとなっただろう。改めて、潜在するリスクの確認と、保険で備えべき事柄を「見える化」しようではないか。

## 来月号は

それぞれの世帯に潜在するリスクの見える化と、損失を移転させるべき保険での備えを考えてみよう。